



「第22回東京ふるさと斜里会に寄せて」

斜里町長 馬場 隆



東京ふるさと斜里会の皆さま、如何お過ごしでしょうか。

去る4月に行われた町長選挙におきまして、町長として二期目の任期を与您にいただき町政の舵取りを担わせていただくこととなりました。平成23年5月、斜里町の町長として就任し、一期4年間に振り返りますと、町政にかかわる様々な分野で多くの課題と直面してきたところですが、「幸せ実感！あったか斜里町」を政治理念として、誠実に向き合ってきました。

また、この間東京ふるさと斜里会の皆様にも多大なるご支援、ご協力を賜りましたことについて、心から感謝を申し上げます。幸せの実感できる、住みよいまちづくりの実現に向けて、引き続き常に前進する姿勢で町長の責務を果たしていく所存であります。今後とも東京ふるさと斜里会会員の皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は知床国立公園指定50周年、今年には世界自然遺産登録10周年という大きな節目を迎え、知床は2年続けてのメモリアルイヤーとなりました。7月には記念式典を開催し、東京ふるさと斜里会の吉野会長をはじめ、全国からおよそ800人の皆様にご出席いただいたところです。これまでの歩みを振り返り、また良質な自然環境を未来に繋いでいくという環境自治体としての責務を再確認したところであります。

また、現在、人口減少の克服、地域経済の維持、活力ある地域産業の発展などの様々な課題を一体的に取り組むための「斜里町まち・ひと・しごと総合戦略プラン」の策定に向けて、作業を進めています。町民や関係機関の意見を反映しながら、社会変化に対応できる戦略を今年度中に策定し、これを基本に人口減少対策に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えています。

町内の大きな変化としましては、今年3月に、多くの方々のご協力を得て、新図書館がオープンし、開館以降、たくさんの方々の利用者の皆様にご来館いただいているところです。

次に、今年の産業の状況について報告させていただきます。農業については、例年より融雪が早かったことや、好天と気温の高い日が続いたことなどから、馬鈴薯やてんさい、小麦などを含め農作物は順調に生育し、農業全体の生産額は平年を上回る状況が期待できそうです。また、漁業については、8月末現在で漁獲量は前年比176%と大きく上回り、これから本格化する秋さけ漁に期待をしているところであります。観光については、世界遺産10周年記念事業に関連するイベントなど、メディアの露出増加などにより、平成21年度以降で最も多い入込状況となっており、特に外国人は前年比で約42%増えています。今後、秋からは天候状況の悪化なども多くなる時期ではありますが、斜里町産業全体の“好天”に期待しているところであります。

終わりに、今後もふるさとを思う斜里会会員の皆様のあたたかいご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、東京ふるさと斜里会のますますのご発展と会員の皆さまのご多幸をご祈念申し上げます、ご挨拶といたします。



斜里町での記念式典に出席して！

会長 吉野 躬行
Yoshino Miyuki

会員の皆様、如何お過ごしですか？ 戦後70年の今年、東京でも140年の観測史上初めて35℃以上の猛暑日を連続8日間記録しました。秋麗の候、いよいよご清栄のこととお慶びを申し上げます。

年に一度、東京近郊在住の皆様方とふるさと斜里に縁のある方々との交流の場として開催して参りました「東京ふるさと斜里会」も今年で22回目を迎えることとなりました。

今年の7月4日、斜里町の「ゆめホール知床」にて『知床国立公園50周年・世界自然遺産10周年記念式典・講演会』が盛大に開催されました。斜里町からのお招きを受けて、東京ふるさと斜里会を代表して7/3-5 お祝いに駆けつけて参りました。

遠くは、沖縄竹富町はじめ各地からの来賓の方々、斜里町民、羅臼町民の方々を含め800名もの参列者で式典をお祝いしました。

「記念式典」の事を書きます。馬場町長の“歓迎のこぼ”から始まり、環境省望月環境大臣、北海道高橋知事、林野庁北海道森林管理局古久保局長、来賓の方々の挨拶の後に、「知床の歩み そして未来へ」、「この10年間を振り返って」の素晴らしい講演がありました。

また、「記念講演会」として、知床が世界自然遺産に登録された2005年に日本ハムに移籍した稲葉篤紀氏が特別ゲストとして登壇し、NHK北見支局アナウンサー（斜里町出身）の司会のもと、野球人生を通しての実践的な野球指導や楽しいトークショーで会場は多いに盛り上がりました。エピソードは知床自然愛護少年団・羅臼町ふるさと体験教室の子供たちによる“知床の未来に向けたメッセージ”が実に純粹で、今でも心に残っています。

式典の最後は、今年4月改選で羅臼町長となられた湊屋町長から、斜里町と共に“知床自然遺産を後世に引き継ぐ”との力強い決意表明が行われ、馬場町長とのタッグで、式典の幕が閉じられました。

式典・記念講演のあと、斜里町からウトロ港より、大勢の町民の皆さん達と“おーろら号”に乗船。“切り立った断崖に縁どられている知床の海岸は、流氷が作り上げた生き物たちの聖域を守る防波堤”といわれるだけあって、おーろら号のデッキから眺める秘境知床の断崖に終始目を奪われ通してでした。

さて、昨年、第三代会長に就任と同時に、役員体制を適正化しつつ、少しでも若い世代へのバトンタッチに着手しました。また、20年間馴れ親しんできました中野サンプラザから、市ヶ谷のアルカディアに会場を移して第21回「東京ふるさと斜里会総会・懇親会」を開催し、無事に継承することができました。

これも一重に、斜里町役場をはじめ、斜里町の皆様がたのご支援の賜物と厚く感謝申し上げます。

最後に会員の皆様にお願いがございます。一つは会員のご子息を次回是非お連れ戴きたいこと。二つ目には、会報しゃり岳への投稿をお願いしたいことです。

これからは高齢化が益々進む中で、持続的な“ふるさと会活動”の為に、役員組織を若返らせ、斜里町の皆様との“絆”をより一層強くして、“東京ふるさと斜里会”発展のために尽力する所存です。

会員皆様方の倍旧のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

平成 27 年度「東京ふるさと斜里会」事務局活動報告



事務局長 土橋 幸博

会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
年に一度、東京近郊在住の会員の皆様とふるさと斜里にご縁のある方々との交流の場として開催して参りました「東京ふるさと斜里会」も今年で 22 年目を迎えることが出来ました。

これも一重に会員皆様方の温かいご理解とふるさと斜里町の絶大なるご支援の賜と熱く感謝している次第です。吉野会長からのご報告にもありましたとおり、斜里町におかれましては今年「知床国立公園 50 周年・世界自然遺産 10 周年記念式典」が盛大に開催され、あらためてご祝福申し上げます。

「東京ふるさと斜里会」は他ふるさと会関係の総会・イベント等に参加しながら会の活性化に努めており、私も会の一員として道産子魂をもって、会員の皆様及び斜里町との絆をより一層深めていけるように色々な活動に参加させて頂き、常に元気を頂いております。今年も元気な皆様にお会いすることが出来て嬉しい限りです。

会員皆様にご協力して頂きたい事があります。今後の「東京ふるさと斜里会」の発展のために、是非新規会員のご紹介をお願い致します。東京近郊にお住いのお知り合い、ご親戚、斜里が大好きな人、募っています！

平成 27 年度の事務局活動報告及び収支報告をご報告いたします。

●活動報告

日時	活動内容	場所	備考
4月25日	北海道ふるさと会連合会 総会懇親会参加	喜山倶楽部	
5月10日	平成26年度会計監査実施	アルカディア市ヶ谷	
5月24日	東京らうす会 総会懇親会参加	渋谷東武ホテル	
6月28日	第1回役員会開催(監査報告及び決算報告)	光が丘区民センター	
7月4日	知床国立公園50周年・世界遺産10周年記念式典参加	ゆめホール知床	自費参加
7月11日	オホーツクふるさと会連合会親睦ホールリンク大会参加	東京ポートホール	個人参加
9月12日	第2回役員会開催	光が丘区民センター	
9月19日	根室の旬を楽しむ会(さんま祭り)参加	東京バーベキューガーデン	個人参加
10月3日～5日	北海道フェアin代々木応援(北海道ふるさと会連合会)	代々木公園	
10月10日	第3回役員会開催	アルカディア市ヶ谷	

●収支報告

収入の部		支出の部	
前期繰越金	331,815	総会懇親会費	824,513
総会費収入	644,000	会議費・事務費	219,300
雑収入	272,000	交際費	93,389
斜里町負担金	100,000	他ふるさと会参加費	77,000
受取利息	28	次期繰越金	133,641
	1,347,843		1,347,843



桜の園

長嶋 秀幸

我が母校、朱円小学校が平成 27 年度を以て閉校になると、「朱円小学校閉校事業協賛会」から 3 月に通知を戴いた。平成 12 年には、朱円小学校開校百周年記念式典・祝賀会に“桜の園”に赴いた。明治 33 年開校から 115 年、2,200 有余名が卒業されている。

法要で、7 月 1 日女満別空港から今回はレンタカーを止めて「知床エアライナー」で道すがら、車窓からゆったりと眺望することにした。網走湖、オホーツク海、海岸山脈知床連山、瀧沸湖、小清水原生花園から聳え立つ父なる山秀峰斜里岳・母と呼ばれた海別岳の雄姿は、優しく何時でもおいでと言っているようだ。

斜里で下車をして、弟の車で朱円へ向かう。奥蕊川を過ぎると、赤上神社の鳥居と楡の大木、夏祭りが懐かしい。あの頃の郵便局・鈴木商店・精米所・蹄鉄所・鍛冶屋・羽田野商店は跡形もない、時の流れは侘しいものだ。小学校の校門横には既に“歴史が詰まった朱円小 ありがとう”の閉校祈念横断幕が張られていた。朱円の学校は桜の名称、花笑む頃は遠足の名所になっていた。

当時、校舎の裏のグラウンドには、ポプラの木が鬱蒼としていたが、殆んど見当たらない。現在の校舎はコンパクトだが、校舎を覆う桜の木、校舎正面のイチイの老木、若返った二宮金次郎像、百周年記念碑など、辺りを散策しながら思いを二つ三つ……

小学 5 年の時の事は未だに忘れていない、取っ組み合いの喧嘩で服のボタンが無くなっていたのを見兼ねた鈴木春子先生が「長嶋さんの服を貸してちょうだい」とお昼休みに、自宅(鈴木商店)へ持ち帰り、ボタンを着けて下さったのが、恥ずかしく悲しかった。お袋は病床で、三男二女の頭で家は貧しく、ボタンは元々一つしか着いていなかったのに。それ以来、少々自重するようになったようだ。

久し振りのグラウンドを歩きながら…斜里町の中学校対校リレーで、アンカーを任されていた“水野福治君”歩幅は短いが走行の回転速度は最後まで衰えることが無かったのが勝因、朱円中学校は速かった。

グラウンドの奥の方角は、課外作業をした畑の在った所、農作業をした翌朝のホームルームで担任が、血相を変えて“お前たち出てこい”と叫んだ、一列横隊で前に並ぶと間髪入れず“キャベツを殺ったのは誰だ”！啞然としていた無言の一瞬？全員に平手の！**豪ビンタ**！ 名乗り出て来ない事への怒りとなった担任の侘しさ、胸の痛さは判ったが、頬ッペは痛かった。あの日は草取り部隊と鎌部隊、畑へ行く途中に農家のキャベツ畑を通ったのを覚えていた。私は草取り部隊だが、犯人は連帯責任として**ビンタの連発**が結末だった。丹精込めて作られた三個のキャベツが真ッ二つにされていたのだから。又、課外での肥担桶運びは野郎の仕事だ、肥エ溜めまでは、往復 1 キロ以上はあったと思うが、オワイ汲む人・担ぐ人 臭い仲間との思い出である。……



この“桜の園”で9年間、40余名が同じ教室で学び、遊び、殆どの男女と机を並べた。還暦過ぎてからの帰郷の折は、十数人クラス会と称して集い、語り逢うのが楽しみの一時。

今回は前以って連絡していないが、栗原英一君(元経済部長)から「明日の今日だけど、予約して置いたから」との電話が入る。夕刻5時、馴染みの“しれとキッチン 熊湖”へ

昔の若人がやって来る。北見から久し振りに出て来た小池博君、いつも網走から見える大室利江さん、芋っこ団子の羽田野洋一君ら15人が集まった。小池君の乾杯で歓談が開始。学校時代の諸々、孫の話、老老介護、明け暮れの生活、健康談議など話題が尽きない時間であった。

学校が閉校されたことに、斜里町農業の長達は子供の数からみて、財政上当然のことと一蹴された。クラス会も宴たけなわになりお開きは、毎度お馴染みの友人の妹さんのお店“スナック順子”へ、カラオケの達人が集う憩いのまほろばで一息入れてから、今野和夫君の中締めで、三々五々解散。



“桜の園”で忘れてならない御仁は、鈴木養太翁であろう。斜里町農業発祥の始祖、明治十年朱円西区に開拓の鋤を入れられた。又、教育機関の設置に共鳴して、明治33年自ら所有する住宅の寄付を出願して、飽寒別簡易教育所として認可される。養太翁は斜里の農業開拓、学校教育に貢献されている。昭和22年朱円小学校と校名が改称され、同年に朱円中学校が開校されるが、昭和45年には廃校される。平成27年度で小学校も廃校となるが、115年の風雪と共に学び舎を守って来た“桜の園”は永遠であろう。

“桜の園”誕生の秘話には、大正12年校舎と校庭を強風から守るために、校舎の南側に一坪一本の植樹がなされた。その後、桜の植樹を勧めたのは斜里町特別功労者日置順正翁の父日置仙助氏が、校庭の植樹の幼木を朝夕眺めるにつけ、「ここを“桜”の森にしたいものだ、どうせ植えるのなら“桜”の木を」と言い続けていたようだと記されている。





根北線の思い出

旅人 高田 敏

今年の6月、「北海道内の赤字ローカル線の廃止が検討されている」とのニュースが流れた。

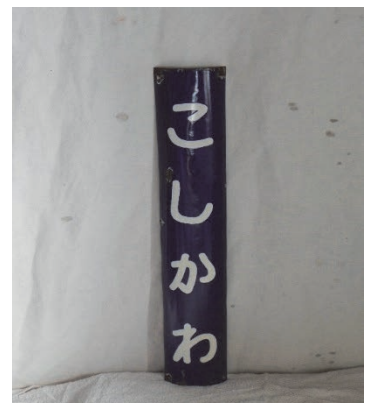
昭和 55 年の「国鉄再建法の公布」により、北海道では、昭和 58 年に「白糠線(白糠駅ー北進駅)」が廃止となり、平成 7 年「深名線」の廃止まで、赤字ローカル線が次々と姿を消した。特に昭和 60 年から平成元年の 5 年間に廃止された路線の数は目まぐるしいものであった。近年では、平成 18 年には、「ふるさと銀河線(池田駅ー北見駅・旧池北線)」が廃止、昨年の平成 26 年には「江差線」の木古内駅から江差駅区間が廃止となっている。

その廃線の歴史の始まりとなったのが、昭和 43 年、国鉄財政の立て直しのために、廃止予定としてリストアップされた「赤字 83 線(全国)」である。そして、昭和 45 年に道内で最初に廃止となったが斜里町の「根北線(斜里駅、以久科駅、下越川駅、越川駅)」であった。根北線は、昭和 32 年に開業した。当初の計画では、「越川駅」から標津町の「根室標津駅」まで延線を予定していた、いわゆる越川駅から先は、未成線の区間である。

私が斜里を初めて訪れたのが昭和 58 年、当然のことながら、現役の根北線の姿は見たことがない。今から 10 年ほど前に、知床斜里駅から根北線を辿って越川駅があった場所まで約 13 キロを徒歩で探索したことがある。しかしながら、根北線の痕跡となるものはほとんど残っておらず、「下越川駅から国道 244 号線を跨ぐ手前の雑林の中に木の電柱」「昭和 32 年 10 月 30 日・詰所と記された建物財産標識を持つ小さな廃屋」を確認できただけだった。越川駅があったと思われる場所に立ち、越川駅の幻影の姿を見いだそうとしたが、何も見えない、ただ畑の姿があるだけである。その先に、登録有形文化財に指定されている「越川橋梁」の姿がある。

斜里町の知床博物館には、当時の越川駅にあった木製の「駅名板」が展示されている。また、私個人的に当時の越川駅に掲げられていたホーロー製の「駅名板」を北海道内で偶然に見つけることができた。将来的には斜里町の歴史の貴重な財産として、知床博物館の木製の「駅名板」と並べて展示していただければと思う

昭和 45 年に放送された新日本紀行「ある廃線～北海道・国鉄根北線」という番組では、今はなき根北線の姿、最終運行日の車内の様子、国道 244 号線拡張前の完全な姿の越川橋梁(第一幾品川橋梁)などが収録されている(インターネットで検索いただければ、アップされているので見ることができます)。是非、この機会にご覧いただければと思う。懐かしい方々の姿を見ることができるとも知れません。



幸せの基準

木村 いく子

2009年に生まれた孫は「知的・多動・睡眠・聴覚」という4つの障害を併せ持つ「自閉症児」です。現在は公立養護学校の1年生として毎日元気に登校しています。3歳児健康診断で総合的見地から「自閉症」と判断され、家族は一時パニックに陥りました。私たち夫婦も何となく「障害児」という呼び名は知っていても「わが孫が?」と自閉症関係の本を買い漁り、インターネットで調べ、知識だけは増えていっても現実として受け入れることはなかなか出来ませんでした。3歳で言葉も話さず、意味も理解できず、ピョンピョンと飛び跳ねては、あらゆる物を口にする。音に過剰に反応し、1日の睡眠が5時間、まるで意思の疎通ができない動物と一緒にいるような有様でした。初めは泣き、嘆き、戸惑っていた親たちは一時も日を離せない子供が一日のほんの少しの睡眠時に「この子が生まれて来なかったら」と散らかり放題の部屋で寝顔を見ていたと言います。それから3年、私たちは「療育」という言葉を知りました。「自閉症」と言うのは生まれつきの脳の一部の病変であり、遺伝等の影響ではなく原因のわからない発達障害の一つであること。決して治ることはないが訓練や特性を生かす教育プログラムによって周囲の理解のもとに社会的共生が望めること。名を上げると誰もが知っている科学者や研究者や芸術家にも発達障害者があり、それぞれの場で活躍していること。それを可能にするのが早い段階からの病気の発見であり個々の特性を見極めながら治療と教育の場を広げ、社会参加の手段としてゆくと言うことでした。

一般には幼稚園にあたる療育園での3年を経て1年生になった孫はルーチン(決まった生活習性)ワークと持って生まれた笑顔で渋い顔の大人を煙に巻き、先生たちを味方につけ、理解者を次々増やしています。

知能は4歳並みの自閉ちゃんは「おはよ～」「こんちわ～」「タッチ」と言葉と動作を増やしながら「次は何が増えるのか」という気を周りにふりまくのです。誰かが言った言葉ですが「障害は不自由ではあるが不幸ではない」。夜中に瞼をこじ開けられても「ババは寝ます」と断固相手にならない私ですし、脱走防止や屋根登り阻止策を次々と考えるせいで認知症になる暇もないジジババ4人組は「3年前にはあんなに泣いたのに」と思う時があります。孫の知能はゆっくりゆっくりと成長していつにいます。その分だけ「幸せ」もゆっくりと目にできることに気づいたのです。統計的に自閉症を持って生まれてくる子の認定率は上がっている傾向と聞きます。私たち夫婦は「どんな大人になるのかね」と話す時があります。どんな職業、どんな生活、ゆっくりさんですから目にすることはきっと叶わないでしょう。でも「元気な自閉症の大人」になることは間違いありません。幸せにいろいろな形があることを周りに教えてくれながら。



5歳 多色使いが出来るがぐるぐるばかり



昨年10月の総会・懇親会に主人と共に



入学式 椅子に座ってられる様になった

毎年、1月中旬から末にかけてオホーツク海岸に押し寄せてくる流氷の話である。知床半島の付け根、斜里海岸に沿って3本の砂丘が内陸に並んでいた。

一番古いものは100万年前の砂丘である。この砂丘を今は見ることは出来ない。この砂丘群をオホーツク海岸から遠い順に100万年前「第1氷期」、10万年前「第2氷期」、1万年前「第3氷期」と記すことにする。

「第1氷期」その氷期に作られた当時の砂丘の高さは海拔150m～200mほどだったと推測しているが現代ではそれは見る影も無く消滅している、50年前には想像することは出来た。100万年の間に雨や風化のせいで海拔30m以下になって存在していた。

新制高校（1951年）に初めて入学した私はその砂丘が校舎西側に「楓ヶ丘」として存在したことを知っている。が、それが100万年前に形成された超世界自然遺産級の砂丘であることを知る由もなく、誰にも気づかずに高校のグラウンドに大掛かりな客土のために「楓が丘」を私達は崩してしまった。

その砂丘とかつてはつながっていた半沢公園と呼ばれている処があった。

その二つの砂丘の間に存在していた砂丘は釧路、網走間の鉄道が敷設された時に削除された。鉄路が敷かれ斜里駅舎と転車台を持った機関庫が作られた。

D51、C58などの勇壮な蒸気機関車のねぐらには6両ほど収容でき、円形の大きな転車台（蒸気機関車と炭水車を同時に回転）を備えた機関庫があった。その車庫からは毎日、力強い黒煙の音と水蒸気が上がっていた。その横に雑木林半沢公園が第1氷期の証左として存在した。いずれも海砂と斜里岳の火山灰（25万年前か）が混ざり、海拔30mの砂丘に楓などの雑木が鬱蒼と生えていた。

1920年ごろには半沢公園と楓が丘は一本の砂丘として存在したはずだ。斜里川は今存在し無い砂丘に阻まれ大きく左に蛇行してから海に向かっていく。

いずれの氷期もロシアの大河、アムール川からの真水と海水が混ざり、樺太で凍り始め、樺太の両岸を南への潮流に乗って宗谷岬と知床海岸に到着する。

南下の途中、流氷はもみ合いながら大きくなる。都会の中心部にあるビルよりも大きく成長してオホーツク海を一面の流氷で埋め尽くす。陸地に近づいた流氷塊はせめぎ合い押し合いしながら、遠浅の砂を削り取って海岸に押し上げる。

「世界自然遺産知床半島」はかなり強い岩盤で出来ているらしく、北方からの巨大氷塊群を変形のL字の半島が阻み、遠浅の斜里海岸で渦を巻きながら大量の砂を陸地に押し上げる。「第1氷期」は海拔200m位の砂丘が出来たと推測する。

100万年前、アフリカ大陸で人類はまだ樹上生活化か地中深く潜んでいたのかまだ、現代の人間の姿をしていなかった。その頃に生まれた砂丘は100万年前からの雨と風化の影響で第1の砂丘は第二砂丘より低くはなってしまった。

「第2氷期」の来襲は10万年前後と推測。寒気は再度地球を覆っていた。嬉しい事にこの氷期の証拠は斜里町の街中にまだかろうじて高台として残っている。しかし、この氷期でも人類はまだ樹上生活をしていた筈だ。この氷期が終わって数万年後、温暖化してから人類は樹上から降り、狩をしながらアフリカを旅立ち、遠く地球上の困難な幾筋かの道程を通りながら、くまなく地球上に人間の歴史を作り上げ、8千年前に斜里川のほとりには縄文人が住みついた。

彼らは少し前に出来た第3氷期の砂丘の陰で生活をしていたらしい。数多くの地球変動を経て人類が誕生したのも驚異の道程だが、斜里海岸で貝を取り、魚を捕まえていた彼ら縄文人はなぜ、いつ、どこに新天地を求めて去ったのか。

その貝塚にとって変わったのがアイヌ民族なのか、別の人種なのかは謎である。

「第3氷期」の巨大氷塊エネルギーは、どれほどの物であったか知らないが「第1氷期」や「第2氷期」ほどではない。

オホーツク斜里海岸を背にし街の方を見上げると現在でも緩やかにオホーツク海岸沿いに海拔60m、奥行き100mはある砂丘が連ぞくして見える。「第2氷期」が作った砂丘を海への通り道として何本もの「切り通し」を作ったのは90年前ぐらいか。第3氷期のなだらかな砂丘の上に立つと切れ切れの丘が見える筈だ、私の50年前の記憶であるが。20年前とは変わっているのかもしれない。

「第2氷期」の砂丘の上（海拔100m位）からは壮年期の斜里岳（1547m）と老年期の穏やかそうな海別岳（うなべつだけ）を左手に、一見、広々とした農地を背景に寂れた街区が見下ろせる筈だ。今では第2氷期が一番高く残っているが、私は第1氷期がもっとも巨大だったと推測している。

「第1氷期」から100万年後、歳月が経ち1万5千人の町になった。新制高校の入学式を枯れた稲と泥濘の田圃の中で全員長靴を履いていた。一年生の午前中、男子はグランド作り（客土）に追われ、「第1氷期」の楓が丘の砂をトロッコに積んで、グラウンドの水捌けの為の客土にした。

第1氷期のオホーツクに押し寄せてきた想像もつかない氷塊の大きさは都会のビル群のような氷塊が渦を巻くようにしながらぶつかり合っていたのだと思うとその巨大さが解る。知床半島の岩盤にぶつかり斜里海岸の氷塊と渦を巻いて轟めき合い、行き場を求めて斜里海岸の遠浅の海砂を削り取って陸上に私達はその残っていた貴重な砂丘の証明も出来ない。知床半島の岩盤は氷期の超巨大な氷塊群にも負けない頑固な岩盤である。世界地図で見る知床半島は世界の半島の中でも、簡単に欠け落ちそうな風情に見える。しかし、知床半島が100万年前より遥か前のプレートの隆起によるものか、火山によるものか私は知らないが巨大氷塊群を受け止め、押し返してきた。「第3氷期」の砂丘には春から初夏にかけてまだ肌寒い風とともにハマナスなどの自然の花々が開花する。

2015.8.25

1953年斜里高校卒 写真家



一生に一度は富士登山

斜里高校 S 4 4 卒 阿部 和雄
(美咲出身)

3, 776 mからのご来光を拝む！

日本人なら富士山頂でのご来光は叶えたい夢の一つです。

私もご多分に漏れずこの夢をいつか叶えたいと思っておりましたが、初心者でも大丈夫！という御触れの「はとバスツアー・一生に一度は富士登山」に会社の仲間数人で参加しました。

山開き直後の連休でしたので5合目の登山口は大賑わい。初日8合目辺りで霧雨となりましたが酷くはならず、それでも翌朝のご来光は大丈夫だろうかと気を揉みました。

前日関東地方は梅雨明け宣言が出ており、平地では30度を超す気温となっておりましたが、富士山頂の夜明け前の気温は5度程度、更に風速20メートルはあるであろうという風が山頂を吹き抜けており、体感気温は氷点下の感覚でした。岩陰に隠れながら待つこと90分、幸い天候は回復し7月20日朝4時40分頃ご来光を拝むことが出来ました。

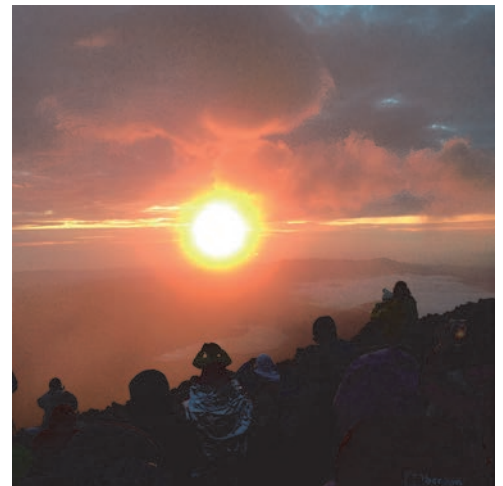
私は高校3年の夏、クラスメートと斜里岳登山を計画しました。山小屋で仮眠をとり早朝に頂上を目指しましたが夜半からの雨で川が増水し、この時は沢登りルートでしたので、これ以上は危険とのことで引き返した苦い経験がありました。

今回の富士登山は延べ14時間（登り9時間半、下り4時間半）でしたが、天候にも恵まれ最高の思い出になりました。

私は東京に単身赴任中（10年目に入ります）です。家族は福岡県の博多です。このところ斜里には年一度は帰るようになっておりますが、斜里に帰るといつもホッとします。

東京での「ふるさと斜里会」もその一つです。殺伐とした都会で心穏やかになることが出来る瞬間です。

ご来光に手を合わせた時、思わず拝んだのは自分を取り巻くあらゆることに「感謝」。



秘境知床「カムイワッカの湯の滝」登りを体験して

吉野 躬行
Yoshino Miyuki

知床観光船のデッキから、子供達と一緒にキャーキャーいながら餌を求めて飛び交う海鳥と戯れた。デッキから眺めた断崖絶壁の知床半島、あの感動は今でも記憶に新しい。1985年8月12日、母の初盆で東京から兄家族と一緒に総勢10人で斜里へ帰郷した時の思い出である。

女満別への航空券が一度に取れず二組に分かれて羽田-札幌（千歳）へ移動し、札幌から夜行列車にて朝方斜里に着いた。同じ日JAL 御巣鷹山遭難事故があった。あの痛ましい事故から今年で30年が過ぎたことになる。

母の法要のあと全員で知床半島をクルージングした。硫黄山航路の折り返し地点であるカムイワッカの滝が観光船から見えた。しかしこの滝にかかる「カムイワッカの湯の滝」への観光は30年前当時は多分無理で、将に世界自然遺産そのままの自然環境であったに違いない。

今年7月4日、知床50・10周年記念式典に出席する5時間程の空き時間を利用して、幸運にも「カムイワッカの湯の滝」を訪れる機会を得た。知床五胡の手前右へ。車のタイヤが「砂利を弾きながら、ソロバン道路の登り坂をどんどん奥地に向かって進んで行った。

“知床は全域ヒグマの生息域でいつヒグマが出没してもおかしくない場所です。” ことし4月知床財団3年間の出向から戻ったガイド役の東優里さんが云う。確かに今年（4月～7月）熊目撃件数は800件を超え、過去最高に迫っているらしい。道中、緊張と期待でワクワクしながら、いつでもシャッターを切れる状態でカメラ越しに車外を見続けた。狭い道ながら素晴らしく整備された山道で数台の車とすれ違いがながら黒ずんだ茂みを見ると不思議と熊にみえたりもする。今や知床は熊との遭遇を期待する観光客が多い。

今回残念ながら熊との遭遇は“おあずけ”となったが、そうこうしている内に「カムイワッカ湯の滝」に到着した。

早速、用意していただいた長靴に履き替えて、いざ「カムイワッカの湯の滝」❖登りを3人で開始した。

（❖）標高400m、落差20m、2005年7月14日に世界遺産に登録された知床半島のほぼ中央に位置する活火山の硫黄山を源流とし約1km下流のカムイワッカ川に温泉が流れ入りオホーツク海に落下、連続する滝のそれぞれの滝壺が野趣溢れる天然の露天風呂となっており、野湯とも表現される。

カムイワッカはアイヌ語のkamuy神、または神のような崇高な存在の意であり、wakkaは水の意であると。この川の温泉の成分が高い硫黄成分を含むため有毒であり、生物が生息できない「魔の水」の意味と解釈されている。源泉は $ph1.6-1.8$ の強い酸性で、皮膚への刺激が強い。－WEB Wikipediaより参照－

湯の川が流れる岩肌をゆっくりと上流めがけて登った。最初は比較的平坦だが、急に勾配の急な岩肌がそそり立つ。前方リード役の伊藤智哉さんの手をかりて勇敢にも一気に駆け登った。まだまだいけますね！最近12年振りに始めたシニアテニスのお蔭？ 脚力に溺れ、調子に乗って気が付いたら、これ以上危険とのロープが張られた「一の滝」に登り着いた。

“どうして滑らないのだろうか？”と疑問になり、川の水を少々口に含んだ。

酸っぱい！直ぐに酸性であることが判った。ぬるぬるのアルカリ源泉と異なり酸性水は藻が生育出来ない。だから岩肌が滑らないのだ！と自分なりに解釈して、この岩肌は“滑らない”のだと自己暗示を掛けた。

記念写真を撮って湯の滝を下り始めた。足がくすむほどの下り急こう配に恐怖を感じながら・・・
かなり緩やかな地点まで辿り着き、あともう少しで終りになる・・・安心して気が緩み両足が揃ってしまったらしい。
その瞬間、お尻に“ガン”と言う強い衝撃を覚えた。一瞬の出来事ではあるが不覚にも“こけてしまった”のだ。
運よく両手が空いていた。両手とお尻でほぼ同時に受身したらしく、怪我からの難を逃れられた。
両腕とお尻部分の着衣が湯水で濡れたため、駐車場の車の陰で“衣替え”。これ幸いと式典出席への服装に
着替えてから、「ゆめホール知床」に無事に届けて戴いた。

ロカムイワッカ湯の滝で毎年滑落事故が発生しています！
全国的に有名になった“カムイワッカ湯の滝”は、シーズン中は多くの人でにぎわいます。
流れ落ちるお湯の川を登っていくのは気持ちのよいものです。
しかし、ここは自然のままの川であり安全や快適さを求める設備や整備は一切おこなっておりません。
登山に「沢登り」というジャンルがありますが、“カムイワッカ湯の滝”を登っていくには、沢登りの初歩の知識と技術と同じものが必要です。

- ❖ 滑りやすい川の中を歩く場所です
 - ❖ 転んだときのためにも、両手には何も持たないでください
 - ❖ 一の滝より上流へは登らないで下さい
 - ❖ ロープがかけられていても絶対に使わないで下さい※1
- ※1 滝に工事用ロープなどをかけていく人がいます。これらのロープはお湯の成分などで腐食し、またいい切減に結び付られているものもあり危険です。自然保護監視員などが発見次第撤去していますので、このようなロープは使わないでください。
= 帰宅後の WEB 検索で「知床斜里町観光協会の旅のメモ」から上記注意書きを見つけた。 =



翌日7月5日羅臼岳・斜里岳を10倍楽しむ方法 と題したNHK公開セミナー にっぽん百名山に出席。
プロの山岳ガイド、太田昭彦講師“下山の心得”で曰く－滑落事故の90%が下山時に発生すると－

全て自己責任。“先にこの話を聞いていればよかったのに・・・”とのご親切な御仁の御託も結構尻に響いた。”

お尻の痛みは1か月程で消えたが、「カムイワッカの湯の滝」登りの思い出は一生消える事はないだろう。
本当の意味で、知合い＝尻合いとなれた。知床観光の際は「知床五湖」と共に「カムイワッカの湯の滝」の観光
を是非お勧めしたい。但し、登る方は“くれぐれ”も下りのあともう一步にご注意あれ！

郷里斜里“知床「カムイワッカの湯の滝」”での旅の思い出-2015 July 3-5